

[提言]

これからの大阪の 都市魅力創造に向けて

～輝く大阪を目指せ～

2017年(平成29年)5月

一般社団法人 関西経済同友会

芸術・文化委員会

関西
経済
同友会

Kansai Association of
Corporate Executives

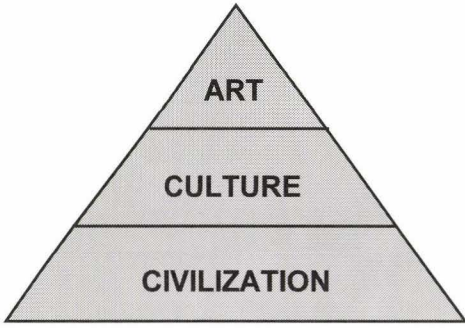
これからの大阪の都市魅力創造に向けて ～輝く大阪を目指せ～

一般社団法人 関西経済同友会 芸術・文化委員会 2016（平成28）年度提言概要

2017年（平成29年）5月

はじめに ～何のために芸術・文化を振興するのか？～

- 文化とは、人の生活様式であり、人の生きざまである。経済もまた人が生きるための営みそのものである。その意味で経済と文化は表裏一体であり、社会を発展・進化させるクルマの両輪であると言える。
- 芸術は人の欲求の発現であり、感性と創造力そのものである。さらに芸術は新たな価値を創造し新たな文化を生む源泉である。
- 芸術・文化の活力は経済の発展を促し、逆は経済の停滞を招く。我々、経済団体である関西経済同友会が「芸術・文化」をテーマとして取り上げる意義はそこにある。
- 都市の価値をいかにして高めるか？これは世界の各都市に共通して与えられた命題である。個々の都市の歴史文化や環境が生み出すアイデンティティに基づく新たな価値を創造し、次世代に向けてレガシーを築くことが、我々の世代に与えられた使命ではないかと考える。
- 世界の各都市は都市魅力の最大化のために静かで且つ熾烈な生き残りをかけた生存競争をくりひろげている。ヨーロッパで始まった創造都市への取り組みは今やアジア各地にまで波及しているが、近代化・グローバル化という“同質化の罠”にはまっている都市も多く、差別化できているとは言い難い。都市の文化はその都市のアイデンティティの発露であり、都市間競争において「芸術」「文化」の振興が重要な行政課題となっている。
- 都市衰退の危機感を市民・行政が共有し、文化を産業として位置づけ官民一体となり、より付加価値の高い文化産業・創造産業へのシフトに取り組んでいる都市では成果を上げているところが多い。
- 本提言では、都市の価値の向上には、芸術・文化振興が不可欠であるとの観点から、これからの大阪の芸術・文化振興のあり方について提言する。



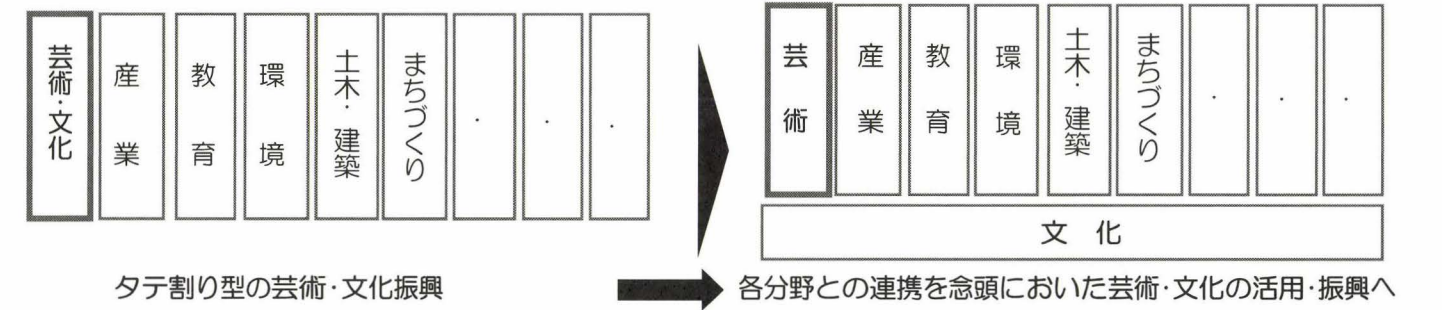
1. 地域活性化と芸術・文化の潮流 ～他地域・他都市の取り組みから学ぶべきこと～

(1)カナダ・ケベック州・モントリオール市	(4) 各事例における特徴 ① 官民連携で、地域が一体となって取り組んでいる ② 継続的開催により、市民レベルで定着している ③ プロデューサー、スタッフの人材が育っている ④ 地域住民が運営に参加し、イベントは住民の誇りとなっている ⑤ 地域のポテンシャルを発掘・発揮・最大化して活用している ⑥ 情報発信の仕組みが有効に機能し、地域外から来訪者が集まる
(2)スコットランド「エジンバラ・フェスティバル」	
(3)瀬戸内国際芸術祭	

2. 大阪の芸術・文化振興の問題・課題

(1) 芸術・文化振興の一体的実施と情報発信の強化、そのための仕組みが必要

- 官民問わず、大阪府・市内では、様々な団体による多くの芸術・文化関連の事業が行われていて、それぞれの事業は頑張っている。
- しかし、それらの情報が一元的に集約されているプラットフォームは無く、事業相互の連携が不十分で相乗効果を高めるための主体も不在となっている（本編 表－3 参照）。
- また、活動主体のネットワーク化が未整備でジャンル・分野が孤立分散している。
- 芸術・文化の事業を、「官」「民」といったセクターを超え、一体的に推進し発信するプロデュース機能が整備されていない。
- 「文化」分野だけにとどまらない、教育、観光など他分野の課題解決に対する文化の視点を取り入れ、多様なコラボレーションの余地が残っている。



(2) 芸術・文化の「消費機会の創出」、「芸術・文化市場の創出」の意思が必要

- 芸術・文化に関連する「モノ」の構築、「ヒト」の集積のためには、芸術・文化活動の活性化とそれに伴う関連消費の拡大を通じた「雇用創出」が必要となる。
- そのためには芸術・文化を介在し、経済がより一層循環するための「きっかけづくり」が必要である。

(3) 芸術・文化関連の人材の集積促進が必要

- アーティスト、プロデューサー、アートマネジメントの人材など、芸術・文化の担い手、支え手が大阪から域外に流出している。
- この流れを断ち切り、芸術・文化関連の人材が集積していく仕掛け、環境の構築が必要である。

(4) 芸術・文化の振興のための投資と新たな財源の確保

- 芸術・文化の振興とその持続可能性を確保するためには、人を惹きつける強い磁力を持った仕組み・仕掛けが必要である。
- 求められる投資の規模は、芸術・文化活動全般に直接関わる費用ではない。運営主体の異なる大小様々な芸術・文化関連事業が、一つのまとまりある「大阪の芸術・文化」として対外的にアピールするための基盤づくりに必要な最小限の費用が必要。

3. これからの大阪の芸術・文化振興に向けた提言

【提言1】芸術・文化振興のためのプラットフォームの構築

- 芸術と文化を通じ、都市魅力を総合的に高めていくには、分野とセクターを超えた連携が必須である。そのためには経済界と行政が一体となり、各主体をつなぐプラットフォーム機能（※）を持った機構が必要となる。
※プラットフォーム機能例
①官民が共同で参画するための、文化振興の戦略を立案し、支援でき、効果的な発信ができるプロモーション機能
②各事業主体の個々の情報を共有し協働できるネットワーク機能、対外的な発信と問い合わせに全てワンストップで対応できるゲートウェイ機能
- 文化によるまちづくりを目指して1982年に「財団法人 大阪21世紀協会」が設立され、芸術文化の振興に取り組んでいる。ここに新たな役割として、芸術・文化のプラットフォーム機能を設け、再び行政が加わることで、官民合同 ALL OSAKA の文化振興体制構築に向けた検討を関係各位に求める。

【提言2】「大阪文化フェスティバル」の定期開催化と国際化

- 芸術・文化が持つ創造力や波及力を通じ、大阪の都市魅力を向上する方策として、国際水準の芸術・文化フェスティバルの定期的開催を目指すことを提言する。
- 大阪府は2017年度に「大阪文化フェスティバル」を開催予定である。これを起点として、【提言1】で述べたプラットフォームにおいて、大阪府・市、民間が協力し、フェスティバルを定期的開催し、国際的に拡げていくことで、アーティスト、プロデューサーを大阪に惹きつけ、芸術・文化関連の人材の定着と関連産業の集積を促進することが可能となる。
- 当委員会でも、文化フェスティバルを盛り上げるために、企業側の取組みの一環として、所蔵する美術品をフェスティバルの期間中に一同に開示する美術展の定期的開催の検討を進めていく。

【提言3】財源の拡大

- 提言1で示したプラットフォームの運営にはボランティアに加えて、専門家と事務所経費が必要となる。その運営費や事業費の財源確保に向け、次の3つの検討を提言する。
- ①**宿泊税**：税の使途は、受入環境整備として旅行者への必要情報提供の環境整備や、プロモーション推進として大阪の魅力の効果的な情報発信事業に充当するとしている。大阪府におかれては、「魅力づくり及び戦略的なプロモーションの推進」の一環として、宿泊税の税収の一定比率を「大阪の光」である芸術・文化振興を担うプラットフォーム運営のために使うことを検討頂きたい。
- ②**「文化宝くじ」**：宝くじの収益の芸術・文化の振興に充てるべく、大阪府におかれては、「文化宝くじ」の実施を検討頂きたい。
- ③**IR(統合型リゾート)の「カジノ収益」**：夢洲で計画されている統合型リゾート(IR)に整備されるカジノの収益を、関西の魅力ある観光コンテンツ「伝統文化・芸術・歴史的遺産」をサポートする団体に対し資金協力を行うことをIR事業者を求める。
- 大阪府・大阪市におかれては、カジノ収益の一部を、アーツサポート関西に加え、芸術・文化振興のプラットフォームに対し、IR事業者が助成金などの資金協力を行うよう、募集要項に盛り込むことを検討頂きたい。以上

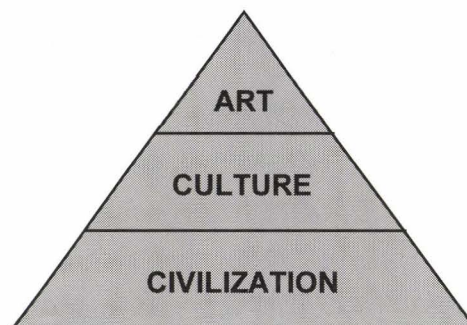
目 次

はじめに ～ 何のために芸術・文化を振興するのか？ ～	1
1. 地域活性化と芸術・文化の潮流 ～ 他都市・他地域の取り組みから学ぶべきこと ～	2
（1）ケベック州・モントリオール市の事例	2
（2）エジンバラ・国際フェスティバル（スコットランド・エジンバラ市）	3
（3）瀬戸内国際芸術祭[Setouchi Triennale]（香川県）	4
（4）各事例における特徴	4
2. 大阪の芸術・文化振興の問題・課題	5
（1）芸術・文化振興の一体的実施と情報発信の強化、そのための仕組みが必要	5
（2）芸術・文化の「消費機会の創出」、「芸術・文化市場の創出」の意思が必要	6
（3）芸術・文化関連の人材の集積促進が必要	6
（4）芸術・文化の振興のための投資と新たな財源の確保	7
3. これからの大阪の芸術・文化振興に向けた提言	7
【提言1】芸術・文化振興のためのプラットフォームの構築	7
【提言2】「大阪文化フェスティバル」の定期開催化と国際化	8
【提言3】財源の拡大	9
①宿泊税	9
②「文化宝くじ」	9
③IR(統合型リゾート)の「カジノ収益」	9
おわりに	10
資料編	11

はじめに ～ 何のために芸術・文化を振興するのか？ ～

文化とは、人の生活様式であり、人の生きざまである。経済もまた人が生きるための営みそのものである。その意味で経済と文化は表裏一体であり、社会を発展・進化させるクルマの両輪であると言えよう。

芸術は人の欲求の発現であり、感性と創造力そのものである。さらに芸術は新たな価値を創造し新たな文化を生む源泉である。地域の文化が普遍性を持って、インフラを伴った都市が形成され、歴史の評価を経た時に文明となる。芸術・文化は経済の発展を促し、逆は経済の停滞を招く。美に価値を求めることは人の本性であり、誤解を恐れずに云うならば、経済の目的は芸術にある。我々、関西経済同友会が「芸術・文化」をテーマとして取り上げる意義はそこにある。



都市の価値をいかにして高めるか？これは世界の都市に与えられた歴史的な命題である。民族の歴史や都市の環境が生み出すアイデンティティに基づく新たな価値を創造し、次世代に向けてレガシーを築くことが、いまに生きる我々に与えられた使命ではないかと考える。現在、世界の各都市は、都市魅力の最大化のために生き残りをかけた熾烈な生存競争をくりひろげている。ヨーロッパで始まった創造都市への取り組みは、今やアジア各地にまで波及しているが、近代化・グローバル化という“同質化の罠”に嵌っている都市も多く見受けられ、魅力ある差別化を果たしているとは言い難い。

大阪は、人形浄瑠璃や歌舞伎など多くの無形文化を生み出し全国に伝え、今に至っている。奈良・京都に先立つ都市として、現代に至る長い歴史を積み重ねてきた大阪だが、度重なる空襲やその後の復興事業で、過去の歴史を伝える街並みや建造物は決して多くはない。

芸術・文化と言う時、普段から目に見えないものを意識することは難しい。しかしながら、斬新でユニークな価値を産み出したり、受け入れたりしてきた素地や懐の深さが大阪にはある。

また、海外からの観光客は、我々が見落としていた、思いもよらない日本、大阪の魅力を見出し、インターネット上で発信している。

そういった、“Something New”をこれからも受け入れ、産み出し、効果的に発信できる仕組みを創る必要があると思われる。

文化はその都市のアイデンティティの発露であり、都市間競争において他の都市と差別化できる独自の「芸術」「文化」の振興が行政政策としても重要な課題となっている。都市衰退の危機意識を市民・行政が共有し、文化を産業として位置づけ官民一体となり、より付加価値の高い文化産業・創造産業へのシフトに取り組んでいる都市は成長を取り戻しているようである。

本提言では、都市の価値の向上には、芸術・文化の振興が不可欠であるとの観点から、これからの大阪の芸術・文化振興のあり方について提言する。

1. 地域活性化と芸術・文化の潮流

～ 他都市・他地域の取り組みから学ぶべきこと ～

当委員会では、アートイベントを地域の“磁力”を強化するための取り組みと位置づけ、調査した。そのうちのいくつかのケースを挙げてこれからの大阪の芸術・文化振興の取り組みに際して、必要と思われるポイントを抽出する。

(1) ケベック州・モントリオール市の事例

ケベック州の最大都市であるモントリオール市は人口約 170 万人（2016 年）、モントリオール都市圏人口約 380 万人を擁するカナダ第 2 の都市である。繊維の町として栄え 1950 年代までカナダ最大の都市であったが、繊維産業が衰退し、ケベック独立運動によるテロやフランス語の公用語化に嫌気した英系企業のトロントへの移転等により町が荒廃した。

1967 年の万国博覧会、1976 年のオリンピックという二大イベントを開催することによりモントリオールの知名度が世界的に上がると共に、ケベック州民の世界を見る目が開かれた。ほぼ同時に発足したケベック党政権は、州民の文化保護・育成に力を注ぎつつ、州内市場規模の限界（当時の人口 600 万人強）もあって早くから芸術・文化を国際化する必要性を認識していた。その後 1992 年に州政府より発表された報告書「ケベック文化政策 1992」の中で、初めて明確に“国際マーケットなくして芸術・文化の発展無し”との基本姿勢が打ち出され、文化の産業化が政策に盛り込まれることとなった。この実現のためにケベック州では様々な機能を持った公社や NPO 法人が設立され、それらを有機的に結び付けることで官民が連携し芸術・文化活動がスムーズに行えるように環境が整えられた（※1）。文化・コミュニケーション省による助成の仕方についても、州による直接支援と公社経由の支援を並列させたり、公社を創造分野と記録保存分野、評価分野の三部門に区分し、相互が密接且つ重層的に関係する構造を持つようにするなど組み立てに独自の工夫が見られる（※2）。視察時の調査では、助成金は分野によっては州政府から市に渡すが、最終的な予算使途は市を経由してアーツカウンシル等の関係公社に任される仕組みになっていることを確認している（国土内務省）。

また世界から経済・文化で認められる都市になるという大きな目標の下、文化特区を整備し年間 600 を超えるイベントのプロモーションを創出、フェスティバルや映画・映像・テレビなどの文化産業を発展させ、雇用とビジネスを生み出して芸術・文化の輸出の支援に取り組んでいる。

このような取り組みの結果、モントリオール市は国際フェスティバル都市として世界から注目され、外国からの訪問客の 26%は国際ジャズフェスティバルや映画祭等の文化イベントを目的とする文化ツーリストが占めるようになった。また、2 年ごとに開かれる国際舞台芸術見本市（CINARS）は世界中のプロデューサーの注目するイベントに成長している。

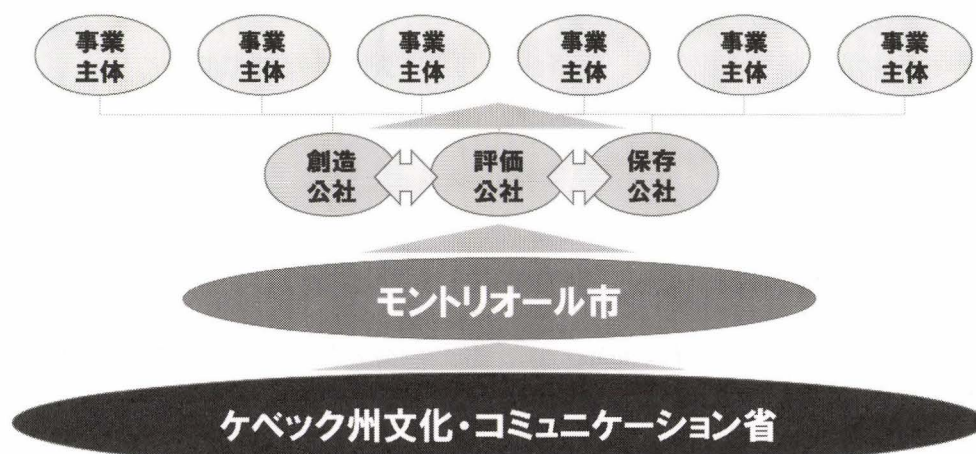
※1 現在、文化コミュニケーション省の下に関連公社を 14 機関設置している。省本体は文化遺産・伝統行事領域を担当し、ケベックアーツカウンシル（CALQ）は文化創造活動を受け持つ一方、文化産業についてはケベック産業促進公社（SODEC）が窓口になると言った具合に分担して活動している。

Quebecの公社リスト

Organismes et sociétés d'État 公的機関	略称	名称	役割	部門	URL
1 Bibliothèque et Archives nationales	BanC	国立図書及び記録館	図書の保存・閲覧	保存	http://www.banq.qc.ca/accueil/
2 Conseil des arts et des lettres du Québec	CALQ	ケベックアーツカウンシル	文化創造活動に対する評価・支援	評価	https://www.calq.gouv.qc.ca/
3 Conseil du patrimoine culturel du Québec	CPCQ	ケベック文化伝承カウンシル	ケベック文化伝承に対する評価・支援	評価	http://www.cpcq.gouv.qc.ca/
4 Conseil supérieur de la langue française	CSLF	フランス語上級カウンシル	フランス語保護普及活動に対する評価・支援	評価	http://www.cslf.gouv.qc.ca/
5 Conservatoire de musique et d'art dramatique du Québec	CMAQ	ケベック音楽・舞台学校	ケベックに根ざす音楽・舞台芸術教育機関	創造	http://www.conservatoire.gouv.qc.ca/
6 Musée d'art contemporain	MAC	現代美術館	現代美術の展示・保存	創造	http://www.maqm.org/
7 Musée de la civilisation	MCQ	文明(文化)博物館	ケベック文明文化に関する文物の展示・保存・修復	保存	https://www.mcq.org/fr/
8 Musée national des beaux-arts du Québec	MNBAQ	ケベック国立美術館	ケベック美術の展示・保存・修復	創造	https://www.mnbaq.org/
9 Office québécois de la langue française	OQLF	ケベックフランス語オフィス	ケベックでのフランス語教育普及活動	保存	http://www.oqlf.gouv.qc.ca/accueil.aspx
10 Régie du cinéma	RDC	映画会	ケベックに根ざす映画の上映・普及	保存	https://mcc.gouv.qc.ca/index.php?id=28
11 Société de développement des entreprises culturelles	SODEC	ケベック産業促進公社	企業活動に対する評価・支援	評価	http://www.sodec.gouv.qc.ca/
12 Société de la Place des Arts de Montréal	PDA	モントリオール芸術広場	芸術劇場・研修施設・イベントスペースの提供	創造	http://placearts.com/index.fr.html
13 Société du Grand Théâtre de Québec	SGTQ	ケベック大劇場公社	芸術劇場	創造	http://www.grandtheatre.qc.ca/
14 Télé-Québec	TQ	ケベックテレビ放送	ケベック文化の映像撮影・放映・保存	保存	http://www.telequebec.tv/

(出所:ケベック州政府在日事務所の情報を基に作成)

※2 ケベック州行政・公社と助成の構造・・・民の事業を成功させるために官が支える。



「ケベック州・モントリオール市の芸術文化環境」(藤井慎太郎早稲田大学文学学術院教授
公表資料(2014.3月)により構成)

(2) エジンバラ・国際フェスティバル(スコットランド・エジンバラ市)

エジンバラ・フェスティバル(Edinburgh Festival)は、スコットランドの首都エジンバラで毎年8月に3週間にわたって開催され、アートの各分野の世界のトップアーティストが参加する芸術と文化の祭典である。期間中は人口48万人の町が世界から訪れる観客で100万人に増加する。世界遺産でもあるエジンバラ城の構内では、連夜、海外からの招致も含めた軍楽隊によるバグパイプ演奏やハイランドダンスが披露されるミリタリー・タトゥーが上演され、市内のいたるところで数多くパフォーマンスが繰り上げられる。

エジンバラ・フェスティバルは1947年、第二次世界大戦の悲惨な経験を反省し、人間性を取り戻して幸福な世界を作り上げるべく、“芸術の発展のためのプラットフォームを提供する”という理念を掲げて、「エジンバラ国際フェスティバル」が創始された。そして同年、8つの劇団がフェスティバル事務局の公認を受けずに「もぐり」で自主公演を行い、これが後の「エジンバラ・フリンジ・フェスティバル」へと発展した。フリンジ・フェスティバルはアートとパフォー

マンスの国際見本市の役割を担い、若手アーティストの最大の登竜門としてまた、プロデューサーの視点では金の卵の発掘の場として世界的に認知されている。

「エジンバラ国際フェスティバル」と「エジンバラ・フリンジ・フェスティバル」は運営主体が異なるが相互に連携してイベントを盛り上げている。1947年以来、エジンバラでは年を追ってオペラ、演劇、音楽、ダンス、映画など分野の異なる様々なフェスティバルが始められたが、その多くが毎年8月の同じ期間に開催されている。エジンバラ・フェスティバルというのは、単一のイベントを指すのではなく、事業主体の異なる独立したフェスティバルの総体を指す呼称である。それぞれの事業主体が連携し共同発信することで相乗効果を得て、外目には一連の巨大な芸術祭として受け止められている。

2012年2月に、当会「歴史・文化振興委員会」が発表した提言『大阪版アーツカウンシル「タニマチ文化評議会」(仮称)の創設を』においても、エジンバラ国際フェスティバルについて、先進的事例として言及している。(表-1 参照)

当該フェスティバルが、雇用創出効果、経済波及効果に資するだけではなく、エジンバラ城とともにフェスティバルが市民にとっての「誇り」になっている点に注目すべきである。

(3) 瀬戸内国際芸術祭[Setouchi Triennale] (香川県)

瀬戸内国際芸術祭(英題: Setouchi Triennale)は、瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代美術の国際芸術祭であり、トリエンナーレ形式で、3年に1回開催されており、2010年に第1回が開催された。「あるものを活かし新しい価値を生み出す」という方針のもと、現代アートを通して、島の生活や文化、歴史などを浮き彫りにするというコンセプトに立脚している。

この芸術祭は、「瀬戸内国際芸術祭実行委員会」の主催であり会長を香川県知事が務めているが、小学生から高齢者まで地域住民がボランティアサポーター「こえび隊」として芸術祭の作品制作の手伝いや訪問客の案内など主体的に運営に加わり、自治体と住民が一体化した運営がなされている。参加する住民が誇りを持てる文化イベントに成長し芸術祭終了後から住民は3年後の次の開催を心待ちにしている。

訪問客の交通手段はフェリーのみであり、芸術鑑賞に加えて多島海の船旅の楽しみが必然的にセットされる。交通の不便さというハンディキャップを付加価値に転化した発想は大いに学ぶべきである。唯一の交通手段であるフェリーに積み残しが出るほどの動員力をもち、国内以上に海外から注目を集めており、リピーターも多く経済への波及効果も回を重ねる度に拡大している。(表-2 参照)

(4) 各事例における特徴

これらの事例からアートイベントに際して重要と思われるいくつかのポイントを次にまとめる。

- ①官民連携で、地域が一体となって取り組んでいる。
- ②継続的開催により、市民レベルで定着している。
- ③プロデューサー・スタッフの人材が育っている。
- ④地域住民が運営に参加し、住民が誇れるイベントである。
- ⑤地域の持つポテンシャルを発掘・発揮・最大化して活用している。
- ⑥情報発信の仕組みが有効に機能し、地域外から来訪者（観光客）が集まっている。

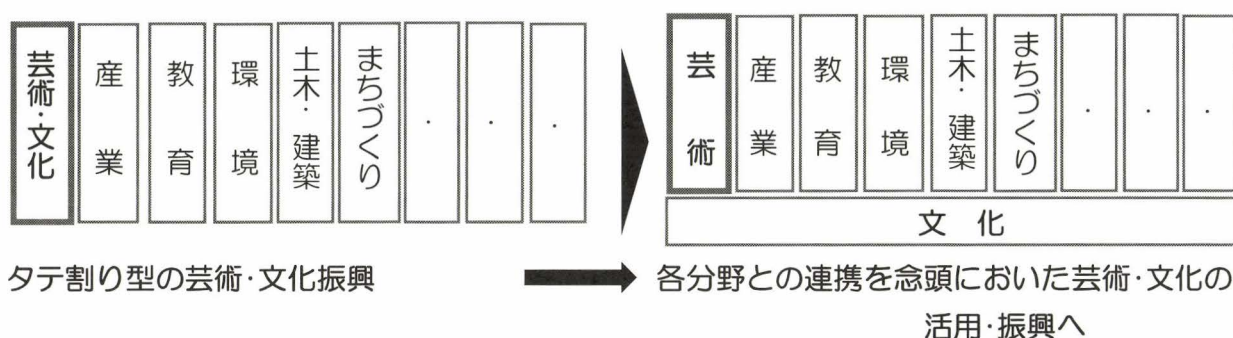
芸術・文化が、地域の活性化、地域の魅力発信力を強化し、経済的な好循環を生み出している事例から抽出したこれらのポイントを意識しつつ、次に大阪の芸術・文化振興における問題・課題を整理する。

2. 大阪の芸術・文化振興の問題・課題

（１）芸術・文化振興の一体的実施と情報発信の強化、 そのための仕組みが必要

大阪府市内では、様々な団体による多くの芸術・文化関連の事業が行われており、それぞれの事業は個性を放っている。しかしながら、その全体像を把握するのは容易ではない。府・市の主催事業や関連施設でのイベントも大阪府・大阪市・観光局・水都大阪パートナーズそれぞれのホームページで個々の関連事業を発信しており、また、イベント告知サイトに掲載されていない事業も多く、地域の取り組みの全容を掴むのが難しい。個々の行事は魅力があるが、訪問客・観客の立場に立った見せ方が出来ていないので勿体無いという感じが否めない。このことは外から見ると大阪からの発信が不十分で判りづらいということを意味している。

（※3）



※3-1 モントリオール市では、NPO法人の“Tourisme Montreal”が運営する「Traveller Tourisme Montreal」というサイトで607のイベントを網羅しており（2017年）、ユーザーの好みに応じて種類・時期・場所が瞬時に検索できるサービスを提供している。このサイトは各種イベントの他、料理・レストランや劇場、ホテルの情報を提供しつつ予約もできる機能を備えている。この法人の主な収入源は同市の宿泊税であり、全収入27億円のうち20億円（約7割）を賄っている（2015年度年次報告）。

※3-2 森記念財団の調査による2016年度の「世界の都市総合力ランキング」では経済、研究開発、文化・交流、居住、環境、交通の6分野で調査し大阪は調査対象の42都市中総合22位にランキングされている。このうち各分野のランキング1位の都市と大阪がもっとも乖離しているのは文化・交流の分野であった。大阪の都市魅力を高めるには、芸術と文化を主軸とした文化力と発信力を強化する取り組みが求められる。

つまり、それらの文化関連情報が官民といったセクターを超え、一元的に集約されているプラットフォームが存在せず、事業相互の連携が不十分で相乗効果を高めるための主体も不在となっていることを示している。(表-3 参照)

2016 年 11 月にまとめられた「大阪都市魅力創造戦略 2020」の答申での大阪府の調査結果を見ても、“文化に関する情報ネットワークが充実していると思う府民の割合”は 23.2% (2015 年)と満足している人は 4 人に一人以下となっている。

芸術・文化はそれ自体が独立した概念ではなく、多様な分野に関連し、それぞれの分野に価値を付加する概念といえるのではないだろうか。

(2) 芸術・文化の「消費機会の創出」、「芸術・文化市場の創出」の意思が必要

芸術・文化に関連する「モノ」の構築、「ヒト」の集積のためには、芸術・文化活動の活性化とそれに伴う関連消費の拡大を通じた芸術・文化の「産業化」「雇用創出」が必要となる。モントリオール市の例で見たように、荒廃した都市を復活させたのも『芸術・文化の産業化』というコンセプトであり、その基本的考え方の上に実動部隊としての公社や NPO 法人を設けつつ有機的に結び付けて行ったことが都市の魅力向上に大きく貢献したことがわかる。

さらにモントリオール市では、NPO 法人が商工会議所・州政府・市行政を繋いでコンセプトを共有し、1979 年から芸術・文化振興に関する 10 年アクションプランに取り組んでいる。共通のコンセプトとは、芸術・文化が経済に与える効果の重要性であり、芸術・文化が経済発展につながるという認識である。その認識のもとで、文化を産業として位置づけて商工会議所、文化界、州政府・市行政が文化産業の振興・発展をミッションとして共有し、10 年単位の長期計画に取り組んでいる。同市ではデジタルアートや映像の持つ創造力に着目し、世界からアーティストや研究者を集め創造力の強化に注力している。米マイクロソフト社は人工知能の研究機関とデザインオフィスと同市に設け、新たにグーグル社は昨年 11 月、深層学習と人工知能の研究拠点を同市に設置することを発表した。

新しいアイデアや高い創造性が経済に波及し、ビジネスが広がっている。次代の産業クラスターはこのようにして形成されていくのかも知れない。共通のコンセプトを経済界・市民・行政が理解し、長期的な視野に立って取り組んでいくことが即ち新たな価値と市場の創出に繋がるのであろう。

(3) 芸術・文化関連の人材の集積促進が必要

1960 年代～1970 年代初めまで、「具体美術協会」は大阪中之島を拠点に戦後の日本の美術界に大きなムーブメントを起こし、世界の美術界から注目された。また 1980 年代～2000 年代初め、有能なアーティストやプロデューサーが豊富に集まった時期があった。OMS (扇町ミュージアムスクエア) や精華小劇場などの新鋭の小劇団が集い舞台芸術を表現する場や、フェスティバルゲートの芸術村など創造力豊かな若者が創作できる場があった。施設の閉鎖に伴い、アー

ティストやプロデューサー達は、大阪を離れ活躍できる場を求めて東京、神戸、福岡、沖縄、名古屋へと移って行き、大阪発のアートの発信力は次第に減衰していった。芸術・文化の担い手、支え手が大阪から域外に流出していると言われて久しい。文化庁が公表しているデータ集（※4）によれば、人口10万人当りの大阪府に居住する芸術家（※5）の人数は約380人であった。最多は東京都で1,055人、最小は秋田県で143人、全国平均は384人となっている（2005年国勢調査を基に文化庁作成）。

データから見ると芸術・文化分野では全国平均ということになるが、“大阪では何をするにしても場所探しに困り、実際に活動する場も少ない”ともいわれる。

日本の第2の都市としてこれで良いのかという疑問を禁じえない。アーティストにとって低廉な稽古場や練習場所も含めて表現する場が少ない上、公共スペースでのイベント企画時の規制も多く、大阪での公演にあたり準備が煩雑となる一因になっている。この流れを食い止め、芸術・文化関連の人材が集積していく仕掛け、環境の整備をしていくことが必要である。

※4 出所：文化庁作成「文化芸術関連データ集（2013年10月）」元データは2005年国勢調査に基づく。

※5 芸術家の定義は、総務省統計局「日本の長期時系列」資料第26章の文化・レジャー編による分類に準じて「文芸家、著述家」「記者、編集者」「彫刻家、画家、工芸美術家」「デザイナー」「写真家」「音楽家」「俳優、舞踊家、演芸家」の職種に分類される住民としている。

（4）芸術・文化の振興のための投資と新たな財源の確保

仕組み作り・仕掛け作りに必要な費用、それは大きな炎を燃やすための「種火」であり、大阪の芸術・文化の振興のための導火線的な投資と捉える必要がある。

ここで言う「投資」の規模は、芸術・文化活動全般に直接関わる費用ではない。運営主体の異なる大小様々な芸術・文化関連事業が、一つのまとまりある「大阪の芸術・文化」として、対外的に大阪をアピールできる基盤を整えるために必要な最小限の費用であり、そのための財源の確保・創出を検討すべきである。

3. これからの大阪の芸術・文化振興に向けた提言

【提言1】芸術・文化振興のためのプラットフォームの構築

都市の魅力とは、人を引き付ける“磁力”である。人の官能を刺激する芸術は、都市文化の特徴であり、景観や歴史遺産、インフラとともに芸術・文化は人を引き付ける力の中核といえよう。都市魅力の拡大には“文化力”の強化が不可欠であり、それにはアーティストの育成とともに個人・団体をネットワークでつなぎ、内外に効果的に発信するプロデュース力、マーケティング力を備えたフレーム（仕組み）が必要である。

大阪府では、平成24年度より平成30年度を終了年度として「江之子島文化芸術創造センター（enoco）」を核とした「プラットフォーム形成支援事業」（※6）に取り組んでいる。

大阪の芸術・文化振興において、より大きな成果を目指すためには、大阪府が推進している行政課題解決手法の理念と同様に、民間と府・市行政が理念と課題認識を共有し、各主体の分野とセクターを越えた連携による芸術・文化振興のプラットフォームを形成することが必要である。

大阪の芸術・文化振興のためのプラットフォームに求められる機能

- ① 官民が共同で参画するための芸術・文化振興の長期戦略を立案し、若手アーティストを支援し効果的な情報発信ができるプロモーション機能
- ② 芸術・文化に関わる個々の事業主体（施設を含む）の情報を共有し助言や活動のサポートができるネットワーク機能
- ③ 対外的な発信と問合せに全てワンストップで対応できるゲートウェイ機能

※6 この事業は、公共空間の利活用、地域の活性化、街づくりなど、単独の部局だけでは解決が困難な複合的な行政課題に対し、アーティストやデザイナー、府民、専門家などの多様な立場の組織や人が、プラットフォームを形成し、行政主導ではなく、対等な立場で交流・対話を行い、アートやデザイン等をツールとして、解決策を検討し提案する官民共同の体制づくりを支援する事業。

大阪では、文化によるまちづくりを目指して1982年に産官学の合同によって「財団法人 大阪21世紀協会」が設立され、2012年には「公益財団法人 関西・大阪21世紀協会」として内閣府から公益認定された。この財団は従来の大阪の文化力向上の事業に加え、新たに「アーツサポート関西」の事務局を運営し、万博記念基金事業を継承している。現在、それらの事業運営には行政はかかわっておらず、民間主体で取り組んでいる。

大阪の芸術・文化振興のためには、この財団の新たな役割として「芸術・文化振興のプラットフォーム機能」を加えるべきと考える。ここに再び行政が加わり、官民一体の“ALL OSAKA”で芸術・文化事業を支援し、発信できる仕組みの構築に向けて検討する機会の創設を関係各位に提言する。

【提言2】「大阪文化フェスティバル」の定期開催と国際化

大阪の都市魅力を向上する方策として、国際水準の芸術・文化フェスティバルの定期的開催を目指すことを提言する。大阪府は2017年度に「大阪文化フェスティバル」を開催予定である。将来的にはこのフェスティバルを起点として、大阪府・大阪市・民間が協力し、提言1で述べたプラットフォームを活用し、エジンバラ・フェスティバルのように定期的に開催し、国際的なイベントへと拡げていくべきである。これにより、アート関連の人材の定着と関連産業の集積を促進し、ノウハウを蓄積することが期待できる。

文化フェスティバルの開催にあたっては、行政主体の運営ではなく、民間や芸術・文化の表現者やメディア等と行政が一体となり、市民が主体的に参加するイベント運営を前提とすべきである。市民は芸術に親しむ権利を持っており、行政にはその機会を提供する大切な役割がある。

また、関西経済同友会 芸術・文化委員会では、企業側の取り組みの一環として、文化フェスティバルを盛り上げるために、所蔵する美術品をフェスティバルの期間中に一同に開示する美術展の定期的開催の検討を進めていく。

【提言3】財源の拡大

提言1で示したプラットフォームの運営にはボランティアに加えて、専門家と事務所経費が必要となる。その運営費や事業費の財源確保に向け、次の3つの検討を提言する。

①宿 泊 税

大阪府では、2017年1月から宿泊税が導入され、1人1泊10,000円～15,000円の宿泊料に100円の課税となっている。税の使途は、受入環境整備として旅行者への必要情報提供の環境整備や、プロモーション推進として大阪の魅力の効果的な情報発信事業に充当するとされており、平成29年度大阪府宿泊税充当事業として17事業に対し、約10億9,000万円が活用される。

「観光」とは、その土地の優れたもの「光を観る」ことであり、宿泊税の税収が観光客と地域住民相互の目線に立った受入環境整備の推進に加え、魅力づくり及び戦略的なプロモーションの推進に活用される点を評価する。

今後さらなる「大阪の光」を創り、都市魅力を高めていくために、大阪府におかれては、宿泊税の税収の一定比率を、芸術・文化振興を担う【提言1】のプラットフォームの恒常的運営のために使うことを検討すべきと考える。

②「文化宝くじ」

宝くじの収益を芸術・文化の振興に充てるべく、大阪府において、「文化宝くじ」の実施を検討頂きたい。

③IR(統合型リゾート)の「カジノ収益」

夢洲で計画されている統合型リゾート(IR)に整備されるカジノの収益を、関西の魅力ある観光コンテンツ「伝統文化・芸術・歴史的遺産」をサポートする団体に対し資金協力をを行うことをIR事業者を求める。

これは、関西経済同友会「関西 MICE・IR 推進委員会」が、2016年11月に提言している。

IR導入に際しては、関西広域の活性化を実現させるとともに、IR事業者と地域との共生を目指すことが求められる。したがって、カジノ収益を、単なる「地元対策」ではなく、「地域共生策」として活用すべきである。(中略)

<支援対象>

- ①上方文化、関西の伝統文化、伝統工芸の保存、継承、発展、振興につながる事業
- ②音楽、美術、演劇等の芸術家支援や発表の場の提供
- ③歴史的文化遺産、歴史的建造物(寺社等)の保存

<支援組織>

関西の芸術・文化活動や歴史的文化遺産の保存活動へのサポートを行っている団体
(アーツサポート関西等) (以下略)

出所：関西経済同友会 関西 MICE・IR 推進委員会4分科会提言『「募集要項」に盛り込むべき事項』32ページ、

2016年11月1日発表

大阪府・大阪市においては、カジノ収益の一部を、アーツサポート関西に加え、【提言 1】で述べた、芸術・文化振興のプラットフォームに対し、IR 事業者が助成金などの資金協力を行うよう、募集要項に盛り込むことを検討頂きたい。

おわりに

これまでみてきたように、都市の魅力を高めるには、公共と民間が一つになり目標を共有し協働し大阪の文化を育成・支援することが必要である。ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズが開催される 2019 年、2020 年、2021 年は大阪の魅力を世界に訴える好機である。現在検討中の IR はハードだけでは成り立たず、また、世界の都市との競合は避けられない。IR を機能させるには、その中身となるソフト（コンテンツ）の魅力が不可欠であり、大阪の芸術・文化が果たす役割は大きい。

2025 年の国際博覧会の大阪への誘致が本年 4 月 11 日に閣議了解された。1970 年は大阪万博を契機に日本でイラストレーター、グラフィックデザイナーが職業として認知され、長岡秀星、横田勉、樺島勝一、池下章、横尾忠則、石原正、真鍋博、岡本太郎らが、日本のデザイン力を世界に示し、多くのアーティストが育っていく契機であったといわれている。

2025 年の万博誘致は、デザイン力・企画力・演出力そして創造力が問われると同時に、創造力豊かな人材を育てる好機でもある。大阪の芸術・文化を大きく育て、「クリエイティブシティ OSAKA」実現に向け、飛躍の時を迎えている。

以上

表一 1 関西経済同友会 歴史・文化振興委員会 提言より抜粋

エジンバラでは、世界遺産である美しい「まちなみ」や、「まち」の象徴であるエジンバラ城を活かして、世界的なエジンバラ・フェスティバルを開催している。これは12のフェスティバルが年間を通じて開催され、夏は5つのフェスティバルが同時に開かれ、盛り上がりが頂点に達する。その中で、ヨーロッパでも有数の規模を持つ最大規模の「国際フェスティバル」には、事務局で厳選したレベルの高いアーティストが世界から招待される。

一方、招待されなかったアーティストのためには、誰でも自由に参加できる「フリンジ・フェスティバル」が用意されており、広場、路上など、まちそのものが劇場となるユニークな催しとなっている。

しかし近年、このフリンジ・フェスティバルがエジンバラ・フェスティバルの中心的な役割を果たすようになった。それは若い人たちの創造力が生まれるからである。人口48万人のエジンバラがフェスティバル期間中は100万人以上の観光客で賑わい、その経済効果は1億4,000万ポンド(175億円)と試算され、年間5,420件の雇用を生み出している。世界中から2万人のアーティスト、2,000人のメディア、1,000人のプロデューサーやディレクターが集結する世界最大のフェスティバルとなっている。アーティストにとっては世界に羽ばたくチャンスであり、**市民にとっては、世界的な発信力を持つ「エジンバラ・フェスティバル」を開催する都市であることが、誇りとなっている。**

関西経済同友会 歴史・文化振興委員会『大阪版アーツカウンシル「タニマチ文化評議会」(仮称)の創設を ～住みたいまち、行きたいまち「文化都市・大阪」を目指して～』(2012年2月)、p 6

表一 2 瀬戸内国際芸術祭 実施概要

第1回	副題：アートと海を巡る百日間の冒険 開催期間：2010年7月19日 - 10月31日 (105日間) 主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会 会長：浜田恵造 (香川県知事) 総合プロデューサー：福武総一郎 (財団法人直島福武美術館財団理事長、現公益財団法人福武財団) 総合ディレクター：北川フラム (女子美術大学芸術学部教授) 会場：高松港周辺、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島 参加：18の国と地域から75組のアーティスト、プロジェクト、16のイベントが参加している。他に芸術祭をサポートするボランティア団体として「こえび隊」が活動している。 来場者：開催期間中、延べ約94万人
第2回	副題：アートと島を巡る瀬戸内海の四季 開催期間： 春：2013年3月20日 (春分の日) - 4月21日 (日) 33日間 夏：2013年7月20日 (土) - 9月1日 (日) 44日間 秋：2013年10月5日 (土) - 11月4日 (月・休) 31日間 主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会 会長 - 浜田恵造 (香川県知事) 総合プロデューサー：福武総一郎 (公益財団法人福武財団理事長) 総合ディレクター：北川フラム (女子美術大学芸術学部教授) 会場：高松港周辺、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島、宇野港周辺 来場者数：延べ約107万人
第3回	副題：海の復権 開催期間： 春：3月20日 (日・春分の日) ～ 4月17日 (日) 29日間 夏：7月18日 (月・海の日) ～ 9月4日 (日) 49日間 秋：10月8日 (土) ～ 11月6日 (日) 30日間 ※会期計 108日 主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会 会長 - 浜田恵造 (香川県知事) 総合プロデューサー：福武総一郎 (公益財団法人福武財団理事長) 総合ディレクター：北川フラム (アートディレクター) 会場：直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島 (春会期)、本島 (秋会期)、高見島 (秋会期)、栗島 (秋会期)、伊吹島 (秋会期)、高松港周辺、宇野港周辺 来場者数：延べ約107万人

表－３ 大阪の文化事業の取り組みおよび発信状況

○印＝ホームページに掲載されている

区分	事業等名	開催期間	実施主体	大阪府	大阪市	観光局	21 協会	水都大阪P
支援事業	大阪ミュージアム事業	通年	大阪府	○				
支援事業	アーティストバンク	通年	大阪府	○				
支援事業	中之島にぎわいの森事業	通年	大阪府	○				
支援事業	大阪ふれあいの水辺事業	通年	大阪府	○				
支援事業	いいデザイン 100 プロジェクト	通年	大阪府	○				
支援事業	大阪文化祭賞	通年	大阪府 21 協会	○	○		○	
支援事業	大阪アーツカウンシル	通年	大阪府	○				
支援事業	アーツサポート関西	通年	関西・大阪 21 世紀協会	○			○	
アートイベント	大阪かわアス事業	4/25～6/20	大阪府	○				
アートイベント	御堂筋イルミネーション	11/20～1/9	大阪・光の宴実行委員会	○	○			
アートイベント	OSAKA 光のルネッサンス	12/14～12/25	大阪・光の宴実行委員会	○				
アートイベント	梅田スノーマンフェスティバル 2016	12/23～12/25	梅田スノーマンフェスティバル 2016 実行委員会	○	○			
アートイベント	新梅田シティ・クリスマスツリー	11/18～12/25	ドイツ・クリスマスマーケット大阪 実行委員会	○				
アートイベント	中之島ウォーターファンタジア	12/14～12/25	中之島ウエスト・エリアプロモーション 連絡会	○				
アートイベント	天満・桜ノ宮 光のエレガンス	11/20～1/31	天満エリア交流会	○				
アートイベント	光のプレミアムポート	12/14～12/25	大阪シティクルーズ推進協議会	○				
アートイベント	大阪ミナミ光マッセ！ スーパーフラワー	11/11～1/19	M プロジェクト実行委員会	○				
アートイベント	あべてん ウィンタープレゼント♪	11/4～1/31	Welcoming アベノ・天王寺キャンペーン 事務局	○				
アートイベント	長居植物園 ガーデン イルミネーション	11/25～12/25	長居公園スポーツの森 プロジェクトグループ	○				
アートイベント	すみのえ・南港 光のワンダーランド	11/3～12/25	すみのえ・南港 光のワンダーランド 実行委員会	○				
アートイベント	築港・天保山ウィンター イルミネーション	11/22～3/31	築港・天保山ウィンターイルミネーション 実行委員会	○				
アートイベント	いばらき光の回廊	11/26～12/25	いばらき光の回廊実行委員会	○				
アートイベント	太陽の塔 3D プロジェクションマッピング	12/9～12/18	大阪府日本万国博覧会記念公園事務所	○				
アートイベント	大東市スマイルミネーション	12/2～12/25	大東市イルミネーションイベント 実行委員会	○				
アートイベント	「堺東・大小路・堺駅」 イルミネーション	12/1～1/15	堺市中心市街地活性化協議会	○				
アートイベント	金剛きらめきイルミネーション	11/26～1/22	富田林市	○				
アートイベント	岸和田カンカンベリエリア ウィンターイルミネーション	12/4～12/25	港縁振興会	○				
アートイベント	水の回廊クルーズ			○				
アートイベント	アート・アッセンブリー	12/22	関西・大阪 21 世紀協会				○	
アートイベント	アート・ストリーム	9/30～10/2	関西・大阪 21 世紀協会				○	
アートイベント	大阪城フェスティバル	7/1～11/30	大阪城サマーフェスティバル実行委員会				○	
アートイベント	イケフェス大阪	10/28～10/29	生きた建築ミュージアム大阪実行委員会		○			
アートイベント	野外演劇フェスティバル	4/29～10/8	大阪市・大阪野外演劇フェスティバル 実行委員会			○		
アートイベント	ドアーズ	7/29～8/6	インターナショナル・ワークショップ 実行委員会				○	
アートイベント	こども劇場	3/18	大阪市立こども文化センター		○			
アートイベント	はじめましてオーケストラ ～大阪フィルと中学生の共演～	3/20	大阪市		○			
アートイベント	竹内街道・横大路(大道) デジタルフォトコンテスト		大阪市他各自治体		○			
アートイベント	北前船寄港地フォーラム in 大阪	7/17	北前船寄港地フォーラム in 大阪 実行委員会				○	
アートイベント	平成 OSAKA 天の川伝説	7/7	NPO おしるなにわ				○	
アートイベント	水都大阪フェス	8/1～10/16	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	中之島オープンテラス	6/1～10/30						○
アートイベント	公園の自転車販売	8/1～11/6	エルワールド					○
アートイベント	大阪市中央公会堂館内ガイド ツアー		サントリーバブリスティサービスグループ					○
アートイベント	くうそうの島	10/15～10/16	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	あかマルシェ	10/15～10/16	あかマルシェ 2016 実行委員会					○
アートイベント	芸術文化魅力育成プロジェクト シンポジウム	10/15	大阪府					○
アートイベント	アウトドアヨガ	10/8～9	アウトドアヨガ祭り実行委員会					○
アートイベント	水辺の能と謡い	10/8	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	フェーリリハーサイドフェスティバル	10/9	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	フライボード	10/9	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	こま光カフェ	10/1～10/8	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	フラダンス・タヒチアンダンス	10/8～9	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	もずやんバスデー	10/8	大阪府					○
アートイベント	SHION 大阪市役所前 & 中之島オープンテラスコンサート	9/12～9/14	大阪クラシック実行委員会					○
アートイベント	クラフトピクニック	9/22～9/25	クラフトピクニック実行委員会					○
アートイベント	肉パーティー	9/29～10/2	水都大阪パートナーズ FM大阪					○
アートイベント	タイア彫刻のライオン	9/22 ～ 9/25 9/29～10/2	水都大阪パートナーズ					○
アートイベント	リバーサイドヨガフェスタ	10/1～10/2	生活ヨガ研究所					○
アートイベント	大阪シティウォーク	10/19～10/2	「大阪シティウォーク 2016」事務局					○
アートイベント	御堂筋オータムギャラリー	10/1～11/20	御堂筋まちづくりネットワーク	○				
アートイベント	STAR LIGHT FANTASIA by NAKED -HARUKAS300-	2/14 から 3/31	ハルカス 300			○		
アートイベント	大阪アジア映画祭	3/3 ～3/12	大阪映像文化振興事業実行委員会		○			
アートイベント	ウィークエンド・シネマ	5/13～5/27	ピース大阪		○			
アートイベント	ウィークエンド・シネマ	4/1～4/29	ピース大阪		○			
アートイベント	高槻ジャズストリート	5/3～5/4	高槻ジャズストリート実行委員会			○		
アートイベント	OUTDOORPARK	4/22～4/23	OUTDOOR PARK 実行委員会			○		
アートイベント	レインボー1 万人の歌謡曲	4/9	(株)レインボー・エンタープライズ			○		
アートイベント	大阪国際フェスティバル 大阪 4 大オーケストラの響演	4/8	フェスティバルホール			○		
アートイベント	アトリエ澤野 スペシャルジャズライブ	3/26	澤野工房			○		
アートイベント	KANSAI COLLECTION	3/19	関西コレクション実行委員会			○		
アートイベント	17 食博覧会・大阪	4/28～5/8	食博覧会実行委員会			○		
アートイベント	大阪のレゴナイト	4/7	レゴランド・ディスカバリー・センター大阪			○		
アートイベント	artDive#12(アートダイブ#12)	4/1～4/2	アートダイブ実行委員会			○		
アートイベント	建築の記憶 大阪万博の建築	3/25～7/4	万博記念公園			○		
アートイベント	大阪キャンピングカーショー 2017	3/25～3/26	大阪キャンピングカーショー 運営事務局(TV 大阪)			○		
アートイベント	OSAKA アート & てづりバザール	3/18～3/20	テレビ大阪 / ATC			○		
アートイベント	大阪城の櫓 内部特別公開	3/18～11/26	大阪城パークセンター			○		
アートイベント	ピクトリクス・ボター”生誕 150 周年「ピーターラビット”展	2/11～4/2	朝日新聞社、関西テレビ放送、東映			○		

アートイベント	日本橋ストリートフェスタ	3/19	日本橋ストリートフェスタ運営委員会		○	○		
アートイベント	筆まつり	4/25	道明寺天満宮			○		
アートイベント	茨木音楽祭	5/5	茨木音楽祭実行委員会	○				
アートイベント	Ninja Action Show	4/4～6/17 火曜日	ジョブ・クローバー株式会社 Flamingo the Arusha			○		
アートイベント	まち歩き「旧小西家住宅と中之島・船場」を巡る	3/26	NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会			○		
アートイベント	ONPS(オンパス)	12/12～3/11	大阪府市芸術文化魅力育成プロジェクト実行委員会	○	○			
アートイベント	「文楽」ゆかりの地 まち歩きイベント (5回)	8/27～11/25	NPO 人形浄瑠璃文楽座		○			
アートイベント	ドラゴンクエスト ザ リアル	3/17～9/3	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン			○		○
アートイベント	大阪クラシック	9/11～9/17	大阪フィルハーモニー協会		○			
アートイベント	「Enjoy! オーケストラ ～オペラの名曲でみるクラシックの愉しみ～」	2/9	大阪フィルハーモニー交響楽団		○			
アートイベント	咲洲こどもフェスタ 2016	11/3 から 11/6	咲洲こどもフェスタ実行委員会		○			
アートイベント	「発見! 生き物のふしぎ」 絵画・絵日記コンクール	7/1～9/12	大阪市		○			
アートイベント	上方伝統芸能 DE 歴塾 サムライ篇	3/13～3/16	山本能楽堂		○	○		
アートイベント	うめきたスポーツパラダイス	10/9 ～ 3/26 (毎週日曜)	うめきたスポーツパラダイス実行委員会			○		
アートイベント	夕陽丘写真コンテスト	4/1～3/31	夕陽丘写真コンテスト事務局			○		
アートイベント	劇団四季ミュージカル「キャッツ」	7/16～8/31	劇団四季			○		
施設事業	大阪市立美術館	2/18～3/20	コレクション展		○			
施設事業	大阪市立美術館	2/18～3/20	特別展「改組 新 第3回日展」		○	○		
施設事業	大阪市立美術館	10/14～1/21	特別展「ディズニー・アート展」		○			
施設事業	大阪市立美術館	4/8～6/4	特別展「木×仏像 飛鳥仏から円空へ日本の木彫仏 1000年」			○		
施設事業	大阪市立東洋陶磁美術館	12/10～3/26	特別展「台北 國立故宮博物院—北宋汝窯青磁水仙盆」		○			
施設事業	大阪市立東洋陶磁美術館	4/8～7/30	特別展「ハンガリーの名窯 ヘレンド」		○			
施設事業	大阪市立こども文化センター	3/18	映画「ピーター・パンく日本語吹替版」		○			
施設事業	大阪市立こども文化センター	1/8	タンバリン博士のおんがくかい		○			
施設事業	キッズプラザ大阪	3/24～4/6	春の企画展 2017 えほんの遊園地		○			
施設事業	キッズプラザ大阪	1/14～3/31	つながってこう!		○			
施設事業	天王寺動物園	3/18～3/26	イースターナイトZOO		○	○		
施設事業	天王寺動物園	11/13	「LIVE GARDEN—WOMAN'S SPORTS FEST!!」		○			
施設事業	天王寺動物園	10/30	「秋色の音色 ～慶沢園に響く篠笛三重奏～」		○			
施設事業	天王寺動物園	10/16	動物園客席		○			
施設事業	天王寺動物園	11/26～11/27	慶沢園「月読みの和芸術」		○			
施設事業	大阪市立住まいのミュージアム	2/25～4/2	浪花の大ひな祭り —浪花の豪商の籠道具—		○			
施設事業	大阪市立住まいのミュージアム	2/4～5/28(土日中心)	町家イベント 町家客席—落語		○			
施設事業	大阪市立住まいのミュージアム	1/3～2/17	企画展「道具の今昔物語」		○			
施設事業	大阪歴史博物館	4/16～6/19	特集展「重要文化財指定記念 なにわの町人天文学者・間重富」		○			
施設事業	大阪歴史博物館	4/26～6/12	特別展「渡来人いずこより」		○			
施設事業	大阪歴史博物館	3/1～4/24	特集展示「近代大阪と名望家(めいぼうか)」		○			
施設事業	大阪市立自然史博物館	7/25～9/3	「メガ恐竜展 2017 —巨大化の謎にせまる—」		○			
施設事業	近つ飛鳥博物館	1/21～3/20	歴史発掘 2016 おおさか			○		
施設事業	大阪城天守閣	8/13	「大河ドラマ「真田丸」の舞台 ～豊国語り 2016～」		○			
施設事業	大阪日本民芸館	3/4～7/17	菓子木型の世界			○		
施設事業	国立民族学博物館	3/9～6/6	開館40周年記念特別展「ビーズ — つながる・かざる・みせる」			○		
施設事業	あべのハルカス美術館	1/24～3/26	拝啓 ルノワール先生 —梅原龍三郎が出会った西洋美術			○		
施設事業	国立国際美術館	1/28～4/9	衰えぬ情熱、走る筆 ビエール・アレシンスキー展			○		
施設事業	国立国際美術館	1/28～4/16	クラナハ展 —500年後の誘惑			○		

資料：関西経済同友会調べ

資料－１ 平成 28 年度 芸術・文化委員会 活動実績（※役職は実施当時のもの）

日付	区分	講師／訪問先	概要
H28. 6. 28	会合	－	平成 28 年度活動方針案の検討、緊急アピール(案)の審議
H28. 6. 30	常任幹事会	－	緊急アピール(案)の審議
H28. 7. 13	講演会、会合	文化庁文化芸術創造都市振興室長 同志社大学経済学部 特別客員教授 佐々木 雅幸 氏	文化庁の文化プログラムを活かした大阪の文化振興方策について
H28. 8. 4	記者発表	－	大阪経済記者クラブにて『大阪府・市の芸術・文化政策に対する緊急アピール～脱・80 円文化政策に向けて～』を発表
H28. 8. 30	視察	日本万国博覧会記念公園 『太陽の塔』内部見学	「太陽の塔内部再生」事業に関するヒアリング、塔内「生命の樹」等を視察
H28. 11. 4	鑑賞会	東京オリンピック・パラリンピック競技大会「文化を通じた盛り上げ」にかかる試行プロジェクト 新作能『水の輪』beyond2020 公演 in うめきた	グランフロント大阪にて、山本能楽堂による企画を鑑賞
H28. 11. 13 ～11. 18	海外視察	カナダ ケベック州 モントリオール市	芸術・文化産業の振興による地域活性化の取り組み事例の調査
H28. 11. 21	鑑賞会	大阪版文化プログラム“大阪城フェスティバル 2020”を目指して～ 『水都を寿ぐ交響楽 能』	山本能楽堂 山本章弘氏と世界的ヴァイオリニスト オーギュスタン・デュメイ氏による能とオーケストラのコラボレーション
H29. 2. 22	勉強会	大阪府府民文化部長 岡本 圭司 氏	平成 28 年 11 月に策定された「大阪都市魅力創造戦略 2020」に関するプレゼンテーションと意見交換
H29. 3. 7	会合	－	提言骨子（案）を審議
H29. 3. 8	ヒアリング、鑑賞会	大阪城パークマネジメント(株) (OPM) へのヒアリング USJ『戦国・ザ・リアル at 大坂城』の鑑賞	OPM に対し、西の丸庭園の管理、運営に関する現状と課題、今後の展望をヒアリング。その後、USJ が主催するイベントを鑑賞
H29. 3. 27	常任幹事会	－	提言骨子（案）を審議
H29. 4. 11	会合	－	提言(案)を審議
H29. 4. 25	幹事会	－	提言(案)を審議
H29. 5. 8	記者発表	－	大阪経済記者クラブにて提言を発表

資料－２ 平成 28 年度 芸術・文化委員会名簿

平成 29 年 4 月 25 日現在（敬称略）

委員長	酒井 朋久	サントリーホールディングス(株)	相談役
委員長	山本 雅弘	(株)毎日放送	相談役最高顧問
委員長代行	坂上 和典	(株)博報堂	特任顧問
委員長代行	吉野 国夫	(株)ダン計画研究所	会長
副委員長	青山 高博	テレビ大阪(株)	取締役社長
〃	天野 直樹	(株)竹中工務店	取締役専務執行役員
〃	石崎 正明	鵜森宮	宮司
〃	浮舟 邦彦	学校法人滋慶学園	理事長
〃	太田 晃	岩谷産業(株)	常務取締役
〃	沖津 嘉昭	岩井コスモ証券(株)	取締役会長ＣＥＯ
〃	長 勇	(株)椿本チエイン	取締役会長兼ＣＥＯ
〃	香川 芳江	香川メディカルグループ	理事長
〃	勝見 博光	(株)グローバルミックス	代表取締役
〃	河内 厚郎	河内厚郎事務所	所長
〃	鴻池 一季	(株)鴻池組	名誉会長
〃	佐野 吉彦	(株)安井建築設計事務所	取締役社長
〃	志賀 茂	がんこフードサービス(株)	取締役副会長
〃	篠崎 由紀子	高麗橋サロン	主宰
〃	高畠 宏一	(株)ミライト・テクノロジーズ	取締役社長
〃	竹内 剛志	関電不動産開発(株)	取締役 副社長執行役員
〃	田中 完治	清水建設(株)	取締役専務執行役員 関西圏担当
〃	土清水 縁	(有)Brillante	取締役社長
〃	新倉 雄二	(株)博報堂ＤＹメディアパートナーズ	取締役常務執行役員関西支社総括担当
〃	二階堂 暢俊	西日本旅客鉄道(株)	取締役兼常務執行役員
〃	西本 伸男	大成建設(株)	関西支店副支店長
〃	野村 卓也	(株)スーパーステーション	取締役社長
〃	服部 一史	(株)電通	顧問
〃	早嶋 茂	(株)旭屋書店	取締役社長
〃	秀高 誠	(株)大林組	常務執行役員
〃	平澤 正英	(株)ロイヤルホテル	取締役会長
〃	藤井 英男	(株)エヌ・ティ・ティ・アド	取締役 西日本営業本部長
〃	藤田 幸一	ストーリーテラー(株)	取締役会長
〃	細見 基志	ダイキン工業(株)	コーポレートコミュニケーション室長
〃	堀井 良殷	(公財)関西・大阪 21 世紀協会	理事長
〃	丸尾 真哉	(株)Ｊプロデュース	取締役社長
〃	三村 景一	(株)毎日放送	取締役社長
〃	村田 省三	アートコーポレーション(株)	専務取締役
〃	山部 茂	住之江興業(株)	取締役社長
〃	山本 章弘	(公財)山本能楽堂	代表理事

委員	和田 省一	朝日放送(株)	顧問
	和田 誠一郎	和田誠一郎法律事務所	弁護士
	朝田 由治	ユアサM&B(株)	常務取締役
	井垣 貴子	(株)健康都市デザイン研究所	取締役社長
	池口 純一	大成建設(株)	副社長執行役員西日本営業本部長
	今堀 均	ジョブラックス(株)	取締役社長
	岩波 清久	日本ピラー工業(株)	取締役社長
	大志万 公博	三精テクノロジーズ(株)	取締役副社長
	小関 道幸	(株)ソーシャルプロデューサー	取締役会長
	小野 傑	西村あさひ法律事務所	代表パートナー弁護士・ニューヨーク州弁護士
	梶谷 健生	パナソニック(株)	関西渉外室 室長
	片山 勉	紀伊産業(株)	取締役会長
	加藤 ひろこ	(株)シンサイカトー	取締役副社長
	北村 豪	(株)JTB西日本	執行役員法人営業大阪支店長
	久保 明彦	(株)プロスパー・コーポレーション	取締役本部長
	後藤 尚雄	(株)朝日新聞社	常務取締役大阪本社代表
	齋藤 勉	(株)産業経済新聞社	専務取締役 大阪代表
	坂本 高彦	(株)南都銀行	顧問
	笹川 敬祐	関電プラント(株)	常務取締役 業務サポート本部長
	佐々木 洋三	(公財)関西・大阪 21 世紀協会	専務理事
	指田 孝太郎	(株)日建設計	取締役常務執行役員
	篠原 正直	(株)TBSテレビ	関西支社長
	城阪 勝喜	松栄(株)	取締役会長
	高橋 香織	(株)エルワールド	代表取締役
	田中 計久	(株)阪神コンテンツリンク	取締役会長
	成瀬 安計	三機工業(株)	執行役員 関西副支社長
	西尾 智子	(有)ダンスウエスト	代表取締役
	西本 紀行	(株)大広	顧問
	福田 里香	パナソニック(株)	CSR・社会文化部 部長
	福家 達二	(株)マ・メール	取締役社長
	松岡 一郎	アイエム(株)	代表取締役
	松谷 晴世	松谷化学工業(株)	取締役社長
	森 和之	三菱商事(株)	取締役 常務執行役員関西支社長 (3月退会)
	藪内 知利	ぴあ(株)	執行役員関西支社長
	山本 卓彦	サントリーホールディングス(株)	大阪秘書室長
スタッフ	高谷 和幸	サントリーホールディングス(株)	大阪秘書室専任部長
	小澤 修	サントリーホールディングス(株)	大阪秘書室専任課長
	當麻 佳成	(株)毎日放送	経営戦略室シニアスタッフ
	松本 務	(株)毎日放送	経営戦略室シニアスタッフ
	田口 晃	(株)博報堂	関西支社渉外担当顧問
	宮尾 展子	(株)ダン計画研究所	代表取締役

〃	寺田 高久	(株)竹中工務店	秘書部長
〃	松田 薫	鵜森宮	秘書
〃	喜多 弘悦	学校法人滋慶学園	取締役ゼネラルマネージャー
〃	今井 智樹	岩谷産業(株)	総務人事部 部長
〃	和田 幸子	(株)椿本チエイン	社長室長
〃	田邊 健二	香川メディカルグループ	事務長
〃	佐々木 康裕	(株)グローバルミックス	専務取締役
〃	上田 雅己	関電プラント(株)	取締役経営企画部長
〃	絹川 進	(株)安井建築設計事務所	企画部企画主幹
〃	中村 貴弘	(株)ミライト・テクノロジーズ	経営企画本部秘書室長
〃	藤田 基己	関電不動産開発(株)	チーフリーダー
〃	雑賀 基	清水建設(株)	関西支店 開発営業部長
〃	高野 健介	西日本旅客鉄道(株)	秘書室主査
〃	辻 由子	大成建設(株)	主任
〃	田崎 友紀子	(株)スーパーステーション	取締役副社長
〃	岡部 典子	(株)スーパーステーション	プロジェクトマネージャー
〃	徳永 真一郎	(株)電通	関西プロモーション・デザイン局 エグゼクティブプロデューサー
〃	中邨 正人	(株)電通	関西プロモーション・デザイン局 プロジェクトプロデュース部長
〃	別所 一弘	(株)電通	関西プロモーション・デザイン局 プロジェクトプロデュース部
〃	安井 渉	(株)旭屋書店	管理部次長
〃	小西 邦明	(株)ロイヤルホテル	総務チーム次長
〃	木村 明則	(公財)関西・大阪 21 世紀協会	万博記念基金事業部長兼アーツサポート関西事業部長
〃	石田 晶子	(株)J プロデュース	第4営業局 第1営業部 ツーリズムプロモーション推進室
〃	濱田 瑞姫	住之江興業(株)	スタッフ
〃	山本 佳誌枝	(公財)山本能楽堂	事務局長
〃	東浦 彩	和田誠一郎法律事務所	スタッフ
代表幹事スタッフ	福岡 克也	(株)三井住友銀行	経営企画部部長
〃	堀 健二	(株)三井住友銀行	経営企画部金融調査室室長代理
〃	坂井 潤一	(株)三井住友銀行	経営企画部金融調査室室長代理補
〃	沓掛 一三	丸一鋼管(株)	社長室理事
〃	寺尾 健彦	丸一鋼管(株)	社長室部長
〃	杭谷 吉倫	丸一鋼管(株)	社長室係長
事務局	齊藤 行巨	(一社)関西経済同友会	常任幹事・事務局長
〃	與口 修	(一社)関西経済同友会	企画調査部課長
〃	樽井 亮太	(一社)関西経済同友会	企画調査部

これからの大阪の都市魅力創造に向けて～輝く大阪を目指せ～

2017 年 5 月発行

発行者 一般社団法人関西経済同友会
常任幹事・事務局長 齊藤 行巨
大阪市北区中之島 6 丁目 2 番 27 号
電話 (06) 6441-1031
<https://www.kansaidoyukai.or.jp/>

印刷所 あさひ高速印刷株式会社

一般
社団
法人

関西経済同友会

Kansai Association of Corporate Executives

〒530-6691

大阪市北区中之島 6-2-27 (中之島センタービル 28階)

TEL:06-6441-1031

FAX:06-6441-1030

